

藤枝練人形

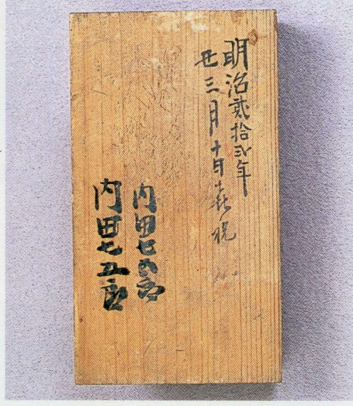
藤枝市

近年、旧長楽寺町の「藤枝だるま」店から茶箱に保管された木型が多数発見され、藤枝で練人形が作られていたことが明らかになった。

創業者と伝えられる内田七五郎は文化10年（1813）藤枝宿白子町の生まれで、いつ頃から練人形を始めたか明らかでないが、江戸時代の鑑札（翫物商）を転用した木型や喜寿祝い（明治22年）の木型を残しているところから、土人形が流行した明治時代には盛んに製作していたことがうかがえる。二代利吉・三代作太郎と木型を新調しながら受け継がれたがその後張り子達磨が中心となり三代目で廃絶していた。



達磨（練・明治前期）



喜寿祝いの木型（明治22年）

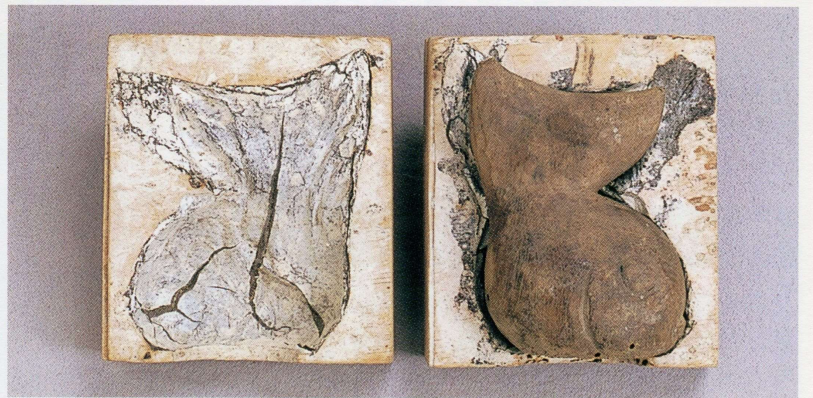


鑑札（江戸時代）を転用した木型（右・赤外線TV）

（表）
「翫物商」
第三十四



天神木型（墨書「大天・前」・「大天・アト」）



鯛車木型と原型



原型各種（とら・俵牛・兵丹犬・鯛抱きなど）



木型と原型（上「大馬」・下「大戌」）

発見された練人形の木型や原型は保存がよく、松脂や滑石粉などに使用時の状況をよく残している。木型の多くは七五郎の使ったもので、天神・童子・プラ人形・鯛・獅子頭・馬・犬・虎・招き猫など22種45点がある。木彫りの原型にはプラ人形・童子・馬・犬・招き猫など26種41点があり、二代利吉によりこの原型をつかった型起こしをした木型も含まれている。型は比較的小型で赤物に含まれるものが多く、大阪練人形系の影響がみうけられる。